



著莪  
(しゃが)

花言葉…反抗、友人が多いなど

日陰地、湿地にはえる。朝開いて夕方にしぼむ。ほのかに香る。寺院によく植えられる。「しゃが」の名は、檜扇(ひおうぎ)の漢名の「射干」を音読みしてつけられた。「射干」「胡蝶花」とも書く。(諸説あるようです)「姫著莪(ひめしゃが)」は著莪より小さめの花で、うす紫色。

# 花のお便り

2018.3 No.141

E-mail : info@miyazaki-p.co.jp  
http : //www.miyazaki-p.co.jp/

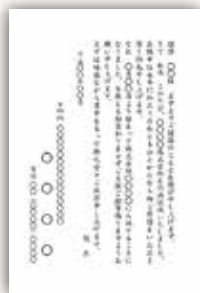
〒157-0062 東京都世田谷区南烏山5-33-2  
TEL. 03-5384-1331・FAX. 03-3305-2528

冬季オリンピックは、数々の名場面をつくり終了した。私が最も印象に残った一場面は、女子500mを制した小平選手の敗者へのリスペクトだ。オリンピックで2大会連続制覇している、韓国の李相花選手は惜しくも2着となり、悲しんでいると寄り添い抱きしめ「いまも尊敬しているよ」と小平が声をかけた。それに李相花は「あなたを誇りに思う」と返した。スポーツに於ける真のライバルの姿に感動し泣いた。小平選手の間人力に拍手



## 新年度用の名刺・はがきはプロ仕様をご用命ください

今年の東京の冬は、厳冬の言葉が相応しく、雪が降った後でも、2週間以上も雪が残る珍現象が現れた。そんな冬もやがて暖かくなり、桜が咲く季節となる。日本はありがたいことです。さて新年度は新入社員や退職、転勤など社内で人の異動が多くなります。名刺・はがきは近頃は簡単に誰もが作成出来るようになりましたが、文字のレイアウト、文字の書体、刷り上がりの高級感、用紙と印刷内容の全体的なバランスは、やはりプロにはかないません。手渡す相手にも自信を持って渡すことができます。どんな無理なレイアウトでも可能です。一度お試しください。



からびよん▶

## 気まぐれエッセイ 河津七滝の怪しい食事処

河津川の上流に河津七滝と言う観光地がある。水が滝のように垂れるので、河津七滝(ななたる)と呼ぶようだ。前日から伊豆を巡った4名、最後にネットで評判の良い店を尋ねた。その店は河津七滝へと続く道の途中にある。「隠れ家的存在」との触込みにふさわしく、陽の陰る薄暗い石段を一步一步登っていく。目の前には古民家風の建物が現れ、立て付けの悪い玄関の戸を開け中に入る。女性の力のない声が聞こえてくるが、とても飲食店との雰囲気がない。建物全体に煙が充満する中を進むと、美術館との立札を発見。さらに進むと、真っ暗闇に何枚かの絵が飾ってある。その先で、扉に突き当たる。「美術館に入れないのですか？」すると、「料金が必要です」と言われ断念。どうも

画家が料理を作っているようだ。梯子のような階段を昇ると、江戸時代の寺子屋にあった机のような物がアンバランスに置いてある。煙の中をどこから来たのか、猫が現れ、突然我々にちょっかいを出す。衣類や身体に爪を立て、なかなか退散しない。するとこれぞ画家と一見してわかる薄汚い服を着た主人とおぼしき人物が現れる。メニューはシンプルで、家庭でも食べられる干物や肉を焼いて食べさせるようだ。待つこと20分七輪を3個持ち主人が現れた。私は鰯をたのんだが、たまたまなのか、身離れが悪く、評価のしようもない。帰りに石段を下っていくと、中国人の集団が登ってくる。「オイシクッタデスカ？」仲間の一人が「美味しかったですよ？」私は……